

本校教育の基本理念を「樹心」の語で表します。「心」は生きていく上で一番中心になるもの、中心にあって全体を支えているものです。「樹」は樹立、揺るぎなく立つことです。樹木が揺るぎなく立つためには、大地との堅固な支え合いというか確実な関係が必要です。自分を黙って支えている世界（大地）への大きな信頼と安心の上に、自分自身への安心をもって自立独立していく様を、「樹心」の語は示しています。

つまり、自分として自立し独立するということは、他の一切との関係の上に成り立つのです。相互の関係の中で、自分の存在が他を支え、他が自分を支えて、成り立っているのですから、自立と共存は同時であります。

私は私として生きていきたい。しかし現実には、他人の目におびえ、目の前の人（特に怖い人やすぐ不快感を出す人）の好みと嫌いを察知して、受け入れてくれる姿を演技してしまふ。或いは、わがまま勝手に突っ張って、まわりの人から遠ざけられていく。いずれも、自分で納得できる自分ではありません。そのうちに、そんな自分を嫌いになっていきます。本当は自分は何をしたいのか、他者とどんな関係でありたいのか、どんなふうに住たいのか、自分が分からなくなっていくってしまいます。すると、何となく元気が出ません。気持ちちは沈み込み、生きていく意味も感じられず、空虚感に浸ってしまいます。

自分は自分として生きるのだと、自分を愛し、自分を尊び、自分で自分を律し、自発的に動こうとし、自信を持って孤独にも耐えられる。そういう自分を確立することが大事です。自分を好きになりましょう。その上で、自分自身への信頼感をもって、自分を内から支える願いに耳を傾け、生きるのです。不都合を他のせいにならず、自分のできる事を尽くしていきましょう。

そして、他者と共に生きていく。「共に」というのは、単なる仲間意識で仲良く生きるということではありません。強い仲間意識は、仲間はずれを生み、他者を疎外しかねません。思い通りにならないことばかりの、この世界から逃げないことです。辛くても嫌いな人も共に生きていく。その人は、私の人生で意味のある人に違いありません。そうしながら、出会い与えられる現実を引き受けていくのです。

私たち一人ひとりには、例外なく誕生の瞬間が与えられました。この私は、家族親族は勿論、ご縁ある様々の人から（きつと亡き人からも）、願われて生まれてきました。多くの人が喜び祝福する中に生まれてきました。生まれたその瞬間、本当に多くの人に喜びや安心や、つまり幸福感を、この私が与えたということを、きちんと認識すべきです。そしてそれ以後も、私を守るためなら、自らの命を差し出す事もいとわれない親が、すぐそばで私に愛情を注ぎつつ、私を育ててくれました。粗末にできない私です。今も、この私は守られ認められているという、大きな安心感に立ちましよう。

私たちの生きるこの世は不如意です。つまり、私の思い通りにはなりません。起こっている現象のすべては、無数無量の要素・条件によって仮にそうなっているのですから。天候をはじめ自然の営みは全く私たちの知恵やはたらかきを超えたものであることは、日常的にも経験する通りです。私の期待を裏切り、うまくいかないことが圧倒的に多くあります。私たちは全能どころか、非力で弱い、そういうものです。しかし時に、うまくいく時もあります。その時、喜びを感じ、まわりの様々に感謝の気持ちがかかります。

そして、うまくいくためには、一人でもがいてもできません。他者を信頼して、協力して事に当たる時、手応えのある成果が得られるのでしよう。異なる資質の一人ひとりが集まると、相乗的に大きな力となります。何かができた時、たとえ直接関わったのが自分一人であったとしても、実は多くの支えの上のことであったと気づかねばなりません。

本校の樹心の教育の願いを受けとめて、自らに安心し他を信頼して、いきいきと生きていってほしいと念じあげます。